

2013年7月「第23回参議院選挙にむけた医療、社会保障等についての政見アンケート」の結果

第23回参議院通常選挙（7月4日公示、7月21日投票）

【奈良県選挙区】

（奈良県保険医協会・作成/2013.7.3）

氏名 (敬称略) 設問	おおにし たかのり <b>大西 孝典</b> (民主党)	たなか たかこ <b>田中 孝子</b> (幸福実現党)	たにがわ かずひろ <b>谷川 和広</b> (日本共産党)	ほりい いわお <b>堀井 いわお</b> (自由民主党)
<p>【自由記述意見】</p> <p>上記の各設問の回答に関する補足を含めて、医療・社会保障等についての政見を自由に記述いただいたもの（最大4000字程度まで）</p>	<p>質問1（2014年4月の消費税率引き上げの実施）について： 経済情勢の好転が必須。</p> <p>質問3（患者の窓口負担の拡大）について： 所得・試算によって変えるべき。</p> <p>質問4（患者の窓口負担の大幅な軽減）について： 財政制約をふまえた制度設計が必要。</p> <p>質問6（生活保護の医療扶助の抑制や保護基準の引き下げ）について： 不正受給の排除は必要だが、本当に生活保護が必要な方々が受給できるよう制度設計すべき。</p> <p>（医療・社会保障等の考え）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持続可能な社会システムの構築に向け、医療・介護・年金制度改革を行い、高齢者が安心して暮らせる社会を実現する。</li> <li>○ 年金については、非正規雇用が増加する中で国民皆保険制度を堅持できるよう、公的年金制度の一元化、最低保障年金の創設を中心とする年金制度改革の実現を目指す。</li> <li>○ 医療については、医療従事者の過酷な労働条件の改善に努めるとともに、がん対策、難病対策の充実を図る。</li> <li>○ 介護については、かかりつけ医と訪問看護など医療と介護の連携の推進、サービス付高齢者住宅の確保、在宅サービスの充実などにより、介護が必要となっても住み慣れた地域で暮らせるように、地域包括ケアシステムの構築に取り組む。</li> <li>○ 子育て支援については、保育所等の待機児童解消や放課後児童対策の充実を図るとともに、若年層の就労支援を行う。</li> <li>○ 民主党政権時、「歯科口腔保健の推進に関する法律」を制定することができた。引き続き、同法を推進すべく、歯科口腔保健の知識等の普及啓発、定期歯科検診の実施等に向け、予算措置等、必要な対策を行う。</li> </ul>	<p>(記述回答はありませんでした)</p>	<p>2012年8月に成立した「社会保障制度改革推進法」は、「自助・自立」を社会保障の基本的な仕組みにした「自己責任」の原則や、国の公的責任・財政負担を大後退させる方向を鮮明にしました。年金、医療、介護、子育て、生活保護など国民の命とくらしにかかわる分野を対象に、憲法25条に定められた国民の生存権、健康権を侵害し、社会保障制度を破壊・解体しようとするものです。</p> <p>社会保障の役割がますます重要になっているときに、制度の根幹を破壊すれば、経済がいつそう冷え込んでしまいます。経済成長が止まれば、社会保障の財源づくりも、財政危機の打開もできません。</p> <p>日本共産党・谷川かずひろは、安倍内閣の医療大改悪、TPPによる国民皆保険解体を許さず、公的医療保障の充実、「医療崩壊」の打開をすすめます。</p> <p>医療サービスが必要な人に、必要なサービスを提供できる仕組みを構築し、現役世代の人も高齢者も、安心して生きがいを持って暮らすことができる社会をつくります。</p> <p>消費税増税を中止し、国民の所得を増やす経済改革を行えば、税収を増やし本格的な景気回復への道を開くことができます。これこそが、日本社会と経済の健全な発展を開く実効ある手だてです。日本共産党は、県民、諸団体のみなさんと協力して、くらしを壊す「アベノミクス」を許さず、県民のくらしと経済を元氣にするため全力をあげたたかいます。</p>	<p>(記述回答はありませんでした)</p>

※氏名50音順で掲載しました。

※自由記述回答は、7月3日を期限として回答いただきました。